

1101

秩父宮御渡頭

大正十四年五月廿四日



當春の收穫

大正十四年五月三十日



井口省吾 三島通良 孫島乳吉 力屋光金 土屋重行 仁田原重 岡田玄郷 米原雲海 河喜多能達 小川滋次郎 佐野静雄 江木東表 平田東三郎 松木鼎三郎 久野寛之助 鈴木寛之助 徳川頼倫 上野英三郎 須田利信 平瀬與一



支那
暴動

大正十四年六月六日

支那



1104

學士院

大正十四年六月十四日



1105

北里心中

大正十四年六月十五日



柴三郎

「流石は俺の作だ
エライおとこ
やりおつた」

俊太郎



1106

四面皆敵

大正十四年六月二十日



支那

米

日

「相手が
悪いか」

英

「アヘ……
困つて居やがる」

露



「コヤボンスキー！
負けふいぞ」



「コヤッブ！
どうした」



「東洋鬼！
サー来い」

1107

悪流行

大正十四年六月三十日



南湖大山	三七九七	台灣	火山	三二二	台灣
中央尖山	三七一五	台灣	北岳	三一九	甲斐
大水南山	三六四五	台灣	荒川岳	三一四	信濃
南王山	三六〇九	台灣	穂高岳	三〇九	信濃
挑山	三六〇〇	台灣	密大山	三〇七	大台
大霸先山	三五五一	台灣	塩見岳	三〇四	甲斐
東岳大山	三四六五	台灣	大武山	三〇四	二台
北合歡山	三三九四	台灣	東岳	三〇三	信濃
翠峰山	三三七九	台灣	農島岳	三〇二	甲斐
寄菜志山北峯	三三六二	台灣	聖岳	三〇一	信濃
巴ツク大山	三三五二	台灣	立山	二九九	二台
寄菜志山南峯	三三五四	台灣	駒ヶ岳	二九六	甲斐
郡大山	三三二三	台灣	白馬岳	二九三	信濃
卑南山	三三〇四	台灣	五郎岳	二九二	信濃
太魯閣大山	三二九二	台灣	前穂高岳	二九〇	信濃
小關山	三二五四	台灣	奥穂高岳	二九〇	三信濃
1108 大正十四年七月日 日本高山表 假二九〇〇ヤ上堅			新高山	三八七	二台
富士山	三七七八	關河	秀姑巒山	三八五	三台
關山	三六六一	台灣	錦ヶ岳	三一八	五信濃
東郡大山	三六五五	台灣	陽ヶ岳	三一八	甲斐
大雪山	三六〇一	台灣	赤石山	三一〇	信濃
雲峯	三五六八	台灣	安東軍山	三〇六	三信濃
寄菜志山	三五四四	台灣	巾雲山	三〇四	三台
合歡山	三三九四	台灣	仙丈岳	三〇三	甲斐
シンカン山	三五八一	台灣	北穂高岳	三〇三	二信濃
丹大山	三三七七	台灣	栗駒岳	三〇二	六信濃
龍高山	三三五二	台灣	劍岳	二九九	八信濃
南双頭山	三三三三	台灣	栗師岳	二九八	八信濃
關門山	三三二五	台灣	駒ヶ岳	二九五	六信濃
手車万山	三三〇四	台灣	劍峯	二九三	三信濃
ルンバカン山	三二九三	台灣	大天井岳	二九二	二信濃
卓社大山	三二七七	台灣	浴部山	二九一	六信濃
扇尾山	三二三四	台灣	錦ヶ岳	二九〇	三信濃

1109

その降雨ぐしの涙
(気温六十度)

垣から釜を抜き
気夜を貰ふ
……



大正十四年七月十三日



1110

癡顏的流行
文明即是野蠻

大正四年七月十日





慈悲菩薩
掌上之爭

大正十四年七月十九日



朝鮮大水害

大正十四年
七月廿日

朝鮮大水害



蒙古勝つ

島田俊雄



佐三木安五郎

大正十四年七月廿三日



運は天あり

大正十四年七月廿八日



III 6

翠巖の瀧へ押すお

(六七兩月中情死二十組
投身一日に四人)

大正十四年七月三十日





浪口

小四

憲政確執
大正十四年七月三十日



8

驟雨一過

鐵道	逓信	農林	高工	文部	司法	海軍	陸軍	大藏	內務	外務	總理
仙石	安速	早速	片岡	田田	江木	財部	宇垣	浜口	若槻	幣原	加藤

內閣統辭職
大命加藤子三再降下
新內閣成立

大正十四年八月二日

政友本党

政友會

憲政會



九大医事部事件

大正十四年八月七日

支那省
ドールカ
助けてやつて
下さい



患者
ドールカ
助けて上
げて
下さい

大塚

1120

大倉翁蒙古探検

大正十四年八月十日

大倉
金の茶釜
がありそう
なものだが



1121

安田騷動

大正十四年八月十四日



結城
片ツバシ
から
あて
斬り
だぞ

「結城を
葬れ」



22

末世
大正十四年八月廿五日

神

「浅まし
世や

女

儒

「嗚呼
已矣

佛

「縁あき衆生は
度し難い



六年振りの
豪雨(被害影)

大正十四年八月廿六日





1125

九大再度の災
大正十四年九月九日





1127

多議選舉終る

大正十四年九月十二日



「お早うお着様でござい
研究會ハコチラで御座います
よいお座敷が明いて居ります」



「交友クラブはコチラ
で御座います、
ドーゾ
お泊ま
り下さい」

1128

高柳



大正十四年九月廿日

秋宮

コラ神妙な致セ

「貴族の
勅任の
奏請を
せすは
あるまい



高柳
「左」
残念ふ

研究會

「人格高潔なる
高柳先生の沛入
會とて……」



1129

祝融氏過乃（浜尾子奇禍）

大正十四年
九月二十五日



1130

當夏の收穫

(自六月
至九月)

大町芳衛 木村庄之助
矢島楫子 田中富太郎
佐藤頭理 那相
小金井芳州 毛利安子
バンクロフト 辰野宗義
高橋岩盛王 堀田正徳
長野純藏 平山松若
坂 伸輔 田中重
山根正次 石井謹吾
阿部正功 ジョシヨシタ
青尾ハ号 戸田海市
由井光衛 天川保
田中康昌 浜尾新
湯本武比古 加藤照磨

大正十四年九月

三十日



1131

五十年振の豪雨? (五石年)

大正十四年十月日



1132

自然征服

大正十四年
十月三日



大自然
「可愛い」
生物だこと

人間
大自然を
征服せよ



1133

朝鮮神宮成る

大正十四年十月十日



ありや堪あらぬ

大正十四年十一月七日



「入會」ろ

「救助」しろ
「就職」口を

世話」ろ

「納税」ろ



「買」へ



「講演」

「とし」ろ

「漫画」

「かけ」



(日)

(支)

(米)

(英)

大正十四年
十月九日





1137

郭、張大子戦ふ

大正十四年十二月四日



郭
コノ
野郎
ナグルぞ

張
畜生メ
斬るぞ







大正十四年十二月十日



1140

へボ将棋

大正十四年十二月廿日



郭 困った
赤あ

見物
早く
やれよ



張
弱つた赤あ

郭一敗地ま塗る

大正十四年
十二月廿五日



見物
馬鹿ッ。
勝負が
ついたじゃ
ないか

張
ナンダ!
おれが
勝ったのか

郭
ナンダ!
おれが
負けたのか

1142

郭射殺さる

大正十四年十二月

二十六日

郭

よせば
よかつた



牧獲

(自十月至十二月)
大正十四年十二月三十一日

山脇玄

大芝惣吉

野寄武吉郎

滝田哲太郎

堀口慶三郎

道家齊

松本源太郎

加納鉄哉

鍋島直虎

石川半山

下岡忠治

山田鉄藏

アレキサ下ラ

大浜忠三郎

ラマ才六世

藤井包總

モールス

阪本紅蓮洞

毛利五郎

岡野敬次郎

岡部長職

岡部長職



徐樹錚殺さる

大正十四年十二月三十一日

陸成武

僕不戴天の父の仇
 こゝで逢つたはソドンゲの
 何と云やラだ思ひ知れ

徐

「ヤ、シヤラ臭い青二才
 汝等如き奴原も、他と
 呼ばるゝ者見は無いて、アイタ、助けてくれ



1145

大正十四年逝く

大正十四年十二月三十一日

十五年

「何か遺言
はあい」

十四年

「何も無い、

後をシツカリ

頼むよ、

左様から、



大正十四年畧譜

大正十四年十二月三十一日



吉凶

叔父平田東助死す
 妻の從姉金丸つる子死す
 妻の甥家原周而結婚す

四月十八日

仙領印度支那(出張勸誘)を拒絶す

(外務省)

大雅堂

帝大

一月

三

五言古詩

A

三仙傳

（韓文）

五月

三聖公出序

（造新宮角）

五、三
月

東興一山

（卷之六）

七月

帝國學士院會員

9

長野名木年一廿月（常大）

十月

朝東へ出月

十月

事工錄

新橋演舞場成る(四月) 商科大學講堂改修工役敷き、冬、米入ミウーの爲に日本館改修(七月、彼より挨拶ありて去る。咄)

大倉美知館設計(七月) 山形縣山形市昭善寺設計(九月)

平田東助伯墓設計(十一月)

秋甲市物産館成る(土旦大倉男京都製糖及粉屋)設計
(十二月)

藝文としての建築
(宇佐重)大宮有造邸の研究 (藤田金)

奈良時代の文様 (博物館蔵) 金建筆の草書 (慶應義塾蔵)

東坡全集卷之五十五 雜著 五十五

現代の藝術 (有馬金吾著) 相模美の京で (土木部)

五言古詩
登觀音閣
寺在巔峯上
僧居寂寞中
雲從足下生
水向掌中流
遠望千峰秀
遙聞萬壑幽
禪心空寂處
悟得本來頭

最精妙の神意は、人形を化け物の形に作り出さるゝ

東洋圖彙（關野氏共著・小林書肆出版）

支那北京城建築（小拼音次不出題）

寄稿

大小二十餘篇



大正十五年二月七日

（殿）
足元の
明るく内に
失敬しやつか

（馬）
（露しや街道）

（黎）
起き
ろよ
大變
だよ



（馬）
ヤレ
しばらく休養だ

今昔

(ブラジル大使暴行)
大正十五年二月八日



昔



「無礼者め」

今

「伯大使主人無礼者め」



「伯大使無礼者め」

1150

大正の歌人

大正十五年一月十日

與謝野晶子

「初初より造り営む

殿堂に

我も黄金の釘一つ

打つ



1151

妖婦

大正十五年一月十一日



武林文子



1153

好同伴

大正十年
三月三十日



小沢武雄

「オーイ
待て
呉此玉へ

加藤高明

「やー
御一しよ
ありまーたね

三浦梧楼

「やー
よく間あつ
たね



1154

新首相若槻礼次郎

大正十五年一月三十日



高明の

つれなく見へし別れあり

若槻はかり

よきものはあゝし





三百万円事件

大正十五年二月六日



「田中と
乾だ」



1156

復興局疑獄

大正十五年二月八日



1157

建國祭

大正十五年二月十日



埃及博物舘

1158

羨むに堪へたり

大正十五年二月十八日

日本

ロク左衛門



世界の大火

大正十五年二月二十日



地名	年	月	日	焼失面積(平方メートル)	被害者数(人)
ロンドン	1666	7	2-6	535000	103300
シカゴ	1871	10	8-9	200000	33000
サウジアラビア	1906	4	18-21	368000	75000
東京	1923	9	1-3	10123000	550000

1160

親子相闘く
(東本願寺の醜状)

大正十五年
三月十日

光演

光暢



1161

陸軍機密費事件

大正十五年三月十日



「怪しいぞ
中を見せろ」

「何も怪しい
ものハ
ない
か」

「絶対に見せ
られぬ
わい」

「奇怪
々々」



衆議院
議員奮闘



大正十五年
三月十二日



1163

醜議員歳費價上げ
運動

甲

「歳費人を
六千円にしよ
うじゃない
か」

乙
大賛成、
チットは
うまい

酒が飲
める

丙
大賛成

いくらか
借金が返へせる



大正十五年三月十九日



大正十五年三月二十七日



1165

松島遊廓事件

大正十五年三月廿九日



岩崎勲

朴烈夫妻減刑の噂

大正十五年三月

「畏くも聖旨より減刑の噂がある
難有く思へ」

朴妻

「聖旨の差入があるゆえに早く殺しやがれ」

恩赦



牧獲

自正十五年一月一日
至今

三月廿一日



松下領三 菊池九郎
 村井吉兵衛 鈴木惣兵衛
 跡見花溪 寺田榮
 久保三友 加藤高明
 三浦梧樓 小沢武雄
 堀田貢 箭内巨用
 大照内朗 李占元
 中沢彦吉 大木遠雪
 高橋直治 内藤寒月
 中田錦吉 住友吉左衛門
 由布武三郎 野田忠廣
 杉原祥造 大塚常三郎
 土屋鳳明 前川秀家
 太田内三 本暮秀彦
 澤村訥尔 島本素彦
 牛島謹尔



1168

後藤子活動

大正十五年四月七日



1169

捨兒流行

(同情賣賣の効果)

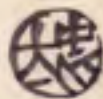
大正十五年四月九日

「私も捨児を
しやうかしら

「私を捨てる
しやうかしら

捨兒

父自首す



思ひきや
陸奥あらで
みやこふる
アカヂが原に
鬼こゝるとは



1171
樞府議長進化

大正十五年四月十三日



一 勢力時代(元老格)

二 德望時代(大臣格)

山縣



三 學識時代(學究格)

穗積



決尾



四 適材時代(能吏格)

倉富



1172

三すくみ

大正十五年四月廿六日



政本



憲政



政友



大正十五年四月三十日



1174

英國總同盟罷業
大正十五年五月五日



1175

アムンゼン北極を究む
大正十五年五月十二日



仰視宇宙無邊大
俯瞰地球無限小



入峽

大正十五年
五月十九日

山下啓次郎

拓野穿山道始通
應知人克奪天工
平安為上車容客
坐翫煙嵐入峽中

伊東忠太

次韻

世道觀來知窮通
行路何必須技工
躊躇幾折攀巖嶠
身在棧雲峽雨中



十勝岳爆発

大正十五年五月廿日



1178

井上匡四郎子入閣

大正十五年六月三日



若槻
「誰か来て呉れませんか」



水野
「この見で
よけれバ
上げよう」



井上
「坊や
行きたい」

1179

東京市長中村是公辞職

大正十五年六月八日



中村
「竈棒め
コンナ椅子が
ナンダ



府縣別公定人口

大正十四年十月一日國勢調査

大正十五年
六月十日



東京府	東京都	大阪府	京都府	奈良縣	和歌山縣	神戶市	大阪市	名古屋市	京都市	神戸市	横濱市	廣島市	長崎市	門司市
一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三

山形縣	秋田縣	福井縣	石川縣	富山縣	島根縣	岡山縣	山口縣	廣島縣	岡山縣	山口縣	廣島縣	岡山縣	山口縣	廣島縣
一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三

二十萬以上の
大都市人口

東京府	東京都	大阪府	京都府	奈良縣	和歌山縣	神戶市	大阪市	名古屋市	京都市	神戸市	横濱市	廣島市	長崎市	門司市
一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三

金澤市	福井市	石川市	富山市	島根市	岡山市	山口市	廣島市	岡山市	山口市	廣島市	岡山市	山口市	廣島市	岡山市
一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三	一、〇七六、八三三

	特許法 公布の年	一々年の出願件数		合計	118
		特許	新案特許		
獨	1877	57000	59000	116000	特許統計(一九二二調) 大正十五年六月十三日
日	1885	12026	27000	39026	
米	1790			88000	
英	1623			35000	
仏	1791			19000	
加奈陀				13000	
伊				12136	大正

1182

東京市長候補者

大正十五年六月廿六日



武田 時政
西谷 保弘
長岡 隆生
相馬 昌一
鎌田 榮吉
三木 武吉
伊藤 多喜
川崎 卓吉
清野 大郎
田川 大吉
立山 浦之進
有吉 忠義
黒田 泰義
藤山 雷太
西田 忠彦
松岡 均平



收穫

自四月三十日
至六月三十日

大正十五年七月一日



穂積陳重
 渡邊霞亭
 淡川玄耳
 大島義昌
 盧高朗
 池邊棟三郎
 山中信義
 李王殿下
 川村景明
 エレ
 鈴置倉次郎
 尾上榮三郎
 齊藤守一郎
 吉田朋吉
 大森喜一
 長谷川輝雄
 藤波言忠
 落合謙太郎
 日比野雷風
 平井晴二郎



1184

伊沢多喜男東京市長を推さる
大正十五年七月二日



「アブナイ！
止めろ

伊沢
矢つ張り
河豚が
食ひたい

「逃げがす
虫のか



1185

米国宣教師常習(朝鮮まで)

大正十五年七月六日



コノ泥棒メ
顔ヲ焼印
を押して
やる

「御免あさい、
これから氣をと
つけます」



1186

悪疫攻め

大正十五年七月十日

天然痘

チフス

ペスト



大正十五年七月十七日



也首蛇眉。哄笑听兮。瞿目閃兮。



伊沢
「三百万の
市民との
俺の怪腕に
驚くか」



上山
「ヤレク
しはらく
晝寝
じゃ」

形如咒声似蒲牢
三年不鸣又不蜚
風雨一夜脱帝城
阿里山上一嘯涼風

長野縣の一揆

(梅谷知事半殺)

大正十一年
七月十八日

梅谷の、
頭の鉢を、
叩いても、

紙幣は
出ないで、
警告
察
が出る。

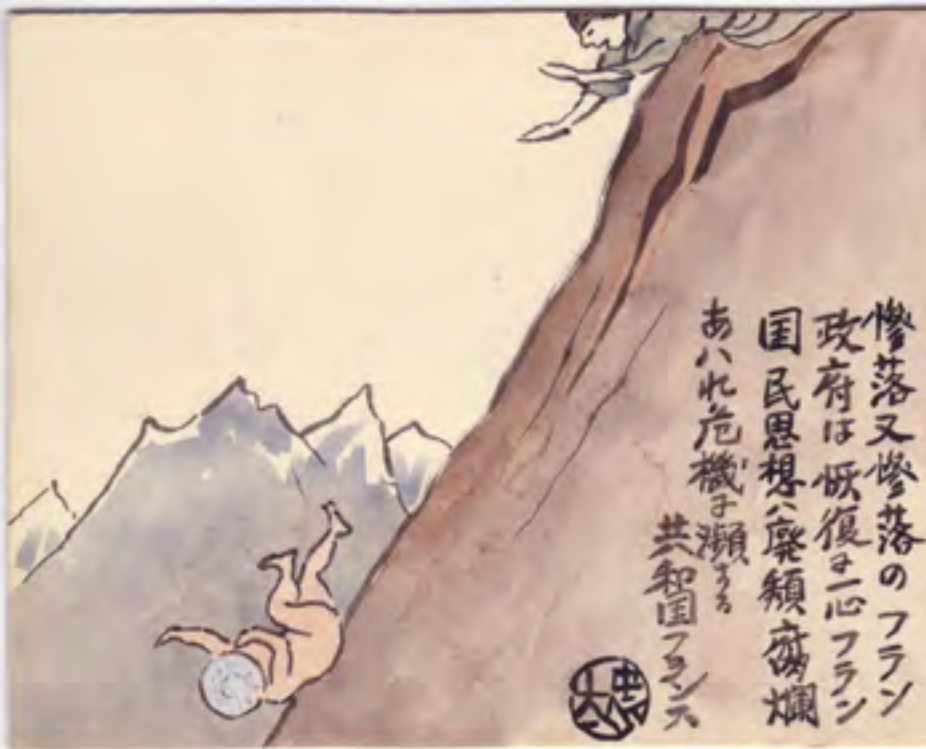


フラン惨々落(一磅に二百四十フラン)

大正十五年七月二土日

惨落又惨落のフラン
 政府は恢復の心フラン
 国民思想は廢頽腐爛
 あはれ危機瀕する

共和國フランス



1190

前進か逆轉か

大正十五年七月二十三日



甲
世は快
速か
前進
する

乙
世は
逆轉
し
つゝ
ある



東西相逐ふ(其二)

大正十五年七月二十四日



東洋

「西洋は新しい
宝がある、一つ
見付けてやろう」



米欧

「東洋は古い
宝がある。
一つ掘り出して
やろう」



1192

東西相逐ふ(其二)

大正十五年七月二十四日



1193

一次官を奈何

大正十五年七月二十六日



仙石
青木
指でも
差させ
あじ

若槻
田つた

青木

佐竹

早くドー
まかしてくれ

井上

ドーにも
あらん



1194

酷暑(九十七度五分)

明治十九年以來のレコード

大正十五年八月一日午後二時



1195

亞細亞民族大會(長崎にて)

大正十五年八月一日



1196

強震

大正十五年八月三日

東京湾頭巨鯨公
游去游来襲何處

忠太

時 大正十五年八月三日
午後六時廿六分廿二秒

性質 強急
震央 羽田沖

最大震幅 二四八ミリ

週期 一六秒

加速度 三八〇ミリ



1197

大倉翁赤石山頂を究む

大正十五年八月六日

赤石の山のうてふに
萬歳を唱ふる身こそ
難有の世や

九十翁 鶴彦



女子發展

大正十五年八月七日



1138

1 水練(但し畳上)



以てタマ
を跳ね
飛す
足る

2 武藝



以て
ジョウを
走らす
足る

3 文藝



以て
お鍋
誇る
足る

4 藝術



以て自界下長
を翻弄する
足る

不可解

大正十五年八月十日



「前代未聞の天象
国運衰亡の凶兆では
ないか」

「ヤ、トモ面白いな」

「バ、バ、市中電気の作用を
しては少し念が入り過ぎる、
ハテナ太陽の黒点のせい
か知ら。」



1200

阿富汗志士追放さる

大正十五年八月十日

